

第5回小平市長期総合計画基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和2年3月12日（木）午後3時から午後5時
開催場所	小平市役所6階 大会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 20名</li> <li>高橋裕子会長            栗山丈弘副会長</li> <li>伊藤規子委員          加藤順子委員          金子恵一委員          神山敬次委員</li> <li>川口幸子委員          川地保宣委員          齋藤啓子委員          市東和子委員</li> <li>鈴木庸夫委員          竹田広輝委員          出口みちたか委員      橋本直子委員</li> <li>古川満久委員          細江卓朗委員          松尾早智子委員          松田肇委員</li> <li>宮奈彰男委員          矢口誠委員</li> <li>・事務局 3名</li> <li>企画政策部長    企画政策部総合計画担当課長</li> <li>企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置として、傍聴中止とした。</li> </ul>
会議次第	<p>1   （仮称）小平市第四次長期総合計画の骨子案に対する意見募集等の実施結果について</p> <p>2   （仮称）小平市第四次長期総合計画の全体構成について</p> <p>3   （仮称）小平市第四次長期総合計画の素案の検討</p>
配布資料	<p><b>事前送付資料</b></p> <p>資料1   骨子案（意見募集用）</p> <p>資料2   骨子案に対する意見募集等の実施結果について</p> <p>資料3   骨子案に対する意見一覧</p> <p>資料4   （仮称）小平市第四次長期総合計画の全体構成（案）</p> <p>資料5   小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨</p> <p>参考資料 『未来の東京』戦略ビジョン」（抜粋）</p> <p><b>当日配付資料</b></p> <p>（仮称）小平市第四次長期総合計画策定状況    ニュースレター</p>

<b>開会</b>	
<b>1（仮称）小平市第四次長期総合計画の骨子案に対する意見募集等の実施結果について</b>	
事務局	資料1、2、3に沿って説明。
会長	小中学生からも非常にたくさんのご意見をいただいている。学校単位で募集したからこのように集まったのであろう。
事務局	ある小学校で、意見提出まで含めて授業の中で取り上げていただいた。
委員	資料2の項目3の大学との意見交換の概要で4大学とあるが、各校、どのような方が何名程度参加されたのか。
事務局	大学の教授や教職員の方にご出席いただいた。学生は含まれていない。武蔵野美術大学が3名、津田塾大学が2名、白梅学園大学が3名、嘉悦大学が5名であった。

委員	資料1の小平市の特性の自然環境に農地は入らないのか。今後、生産緑地をどのように次の土地利用に誘導していくか、大きな分かれ目だと思う。農地の活用や農地の保全是、第四次長期総合計画の12年間で視点として入れておきたい。
事務局	小平市の特性の中で、自然環境に入れるのがいいのか、又は地域資源に入れるのがいいのか非常に悩ましい。農地は、市民の皆様からも、まちの資源だというご意見を多くいただいている。小平市の特性に書いてあるものは、まちの強み、魅力として今後のまちづくりにいかしていくものということを示しており、どちらに書き込むのが良いのか整理する。 農業として成立しないと農地が残らないということで、都市農業として産業振興に位置づけていることをベースにしながら、環境面での緑の良さも含めて示せるようにしたい。
委員	資料2の意見提出の概要の年代内訳で、10代の人数が129人というのは、小学校で授業として取り上げていただいたということだが、その他の年代としては、20代1名、30代0、40代3名、50代4名、60代2名、と偏りがある。今後7月にパブリックコメントを実施することになるが、抜本的に改革することは難しいにせよ、もう少し意見が述べやすいよう考えることも必要である。
<b>2（仮称）小平市第四次長期総合計画の全体構成について及び3（仮称）小平市第四次長期総合計画の素案の検討</b>	
事務局	資料4、5に沿って説明。
会長	本日は骨子案から素案に向けて、資料1の骨子案と資料4の全体構成案を見ながら、一つずつ確認をしていく。まず、基本的な理念であるが、事務局からは、意見募集等の結果も踏まえ、骨子案で示した内容を基本にブラッシュアップしていきたいとあった。基本的な理念について意見はあるか。
委員	資料5の2ページ目の上から6行目に、「あれか、これかとメリハリをつけた行政を推進するという意見に共感する。しかしながら、小平市が12年後どういう市になっているのかがあまり見えてこない。多摩26市で埋没して、選ばれない市になるのではと非常に危惧している。」との意見がある。この意見の補足説明を願いたい。
事務局	例えば、小平市は、立川市や国分寺市等の中央線沿線の自治体と比較されることがある。小平市としてしっかり特色を出し、住みたいと思われるようなまちを目指していく必要があるのではないかというご意見である。
会長	小平市が次の世代からも選ばれるようなまちになるのか、心配だという主旨であろうと受け止めている。
委員	理解した。 基本的な理念については、ふるさとの概念についてどう考えるのか。誤解を招かないよう説明ができ、進んでいくということであれば良いと考える。全体的には非常にコンパクトにまとまって、よくできているという印象を持っている。
委員	地方自治法から総合計画に関する規定が削除され、他市がどの程度このような総合計画を策定するのかは分かりかねるが、おそらく他市でも議論されているであろう。

	<p>そうなると、平坦な内容になってしまうと、ご意見のとおり埋没してしまう。小平市の独自性を出すことや、ある程度特徴のあるものにしても良いのではないか。</p>
委員	<p>非常にまとまってはいるが、第三次長期総合計画と第四次長期総合計画の連動も形にすると良いのではないか。そういう意味からも、「安全安心に住み続けられる活力あるまち」と考えた。活力という言葉を入れることで、まちを発展させていくという想いが伝わるのではないか。</p>
事務局	<p>基本的な理念の考え方としては、大切にしたいまちづくりの姿勢、常に立ち返るべき基本的な姿勢として位置づけ、市制施行 100 周年までつないでいくものである。ある意味普遍的な考え方を改めて共有するということである。第三次長期総合計画で掲げた将来像の「躍動」や「進化」なども引き継ぎながら第四次長期総合計画の 12 年間の将来像として市民の皆様と共有していくものを検討していきたい。</p>
委員	<p>基本的な理念や、基本目標の方針の中で「安全」や「安心」が使われている。小平市を取り巻く状況には、「自然災害や気候変動に対する安全安心への対応」と出てくることもあり、「安全」や「安心」の使い分けができるが良いのではないか。</p>
事務局	<p>「安全」や「安心」について、骨子案の中でも様々に使っている。基本的な理念に掲げた「安全安心」は、ひとづくり、くらしづくり、まちづくりすべてに共通する考え方として使っている。基本目標Ⅲの方針 2 の「安全」は、都市基盤における対策という意味合いで使っている。いただいたご意見を踏まえて、表現を工夫したい。</p>
委員	<p>閉鎖的にならず、「柔軟性を持った様々なことを受け入れていく地域」ということについて考えていけるようなものを含めると良いのではないか。</p>
委員	<p>「私たちは互いに認めあい、支えあい、助けあい」は非常に良い理念だと思っている。しかしながら、平凡であるということが小平市の代名詞として言われてしまうようなところも確かにあるわけで、小平市のイメージが湧いてくるような肉付けができれば良い。また、小平市は市民活動が盛んであるので、良い特色になるのではないかと考えている。</p>
事務局	<p>骨子案に対する意見募集項目のうち、基本的な理念については、特に小中学生からは、「認めあい、支えあい、助けあい」は非常に大切だと共感していただくようなご意見をいただいた。また、「豊かな環境と文化を守り、育て、後世にも伝えます」としているが、小平の文化とは何かということの説明が必要であると考えている。</p>
会長	<p>基本的な理念については、本日の審議も踏まえ、事務局に背景や考え方などの肉付けを行っていただく。今後も素案検討の中で、文言整理をするタイミングもあろうかと考えている。</p> <p>次に、資料 4 で示している、市を取り巻く状況と計画策定の視点、それらを踏まえた将来像に関して、また大学や企業等との意見交換にも見受けられた SDGs についても整理が必要である。基本的な理念が、市制施行 100 周年を見据え、後世にまで引き継ぐまちづくりの基本的な考え方であるのに対して、将来像は、市制施行 100 周年を見据えた基盤となる、第四次長期総合計画の期間中に目指すビジョンということになる。3 つの基本目標と、持続可能な行財政運営を統合してどのようなビジョ</p>

	<p>ンを掲げるのか。事務局の説明にもあったように、市制施行 100 周年まで持続可能な社会を構築していくための基盤になる期間ということがポイントとしてあろうかと考えている。市を取り巻く状況と計画策定の視点、将来像について意見はあるか。</p>
委員	<p>企業との意見交換の中で、共創という言葉があった。共に創るという言葉がとても良い。産後の状況、児童虐待、DV の実態や地域の課題、少子化などの根本的な要因の一つとして、男女平等が達成されていないということが挙げられるのではないかと。当事者が本来持っている力を発揮できるようにするためには、啓発の場、学びの場が必要になってくる。骨子案の小平市の特性の中にもある学園都市であるということ、津田梅子ゆかりの土地であるということからも、市民、大学、企業、行政が協働して講演会などを開催することで市民力を向上し、地域を活性化していく。女性が活躍できるまち、女性のエンパワーメントを推進するということを出していきたい。「共に学び、共に創る学園都市である小平」や、「文化のまち小平」というような、そういったキーワードが入ると良い。</p>
会長	<p>国立市は文教都市として、緑も多く並木道のイメージが出てくる。小平市にも特色ある大学がこれだけあるので、市のイメージの中に浸透できるようなものを出していけたら良いのではないかと。</p>
委員	<p>障がいを持った方のための施設が複数ある。そういう意味で、小平市は優しいまちだと感じている人が多数いると思う。障がいのある方に優しいということは、子育て世代や高齢者にも優しいまちになる。また、近隣からは市民活動が活発だと評価されている。大学生が障がい者の施設などで実習やインターンシップ、ボランティアを通してその施設に就職するという流れもできている。こうした視点からも、小平市の良さとしてのキーワードがたくさん出てくるのではないかと。</p>
会長	<p>多様な方々への様々な学びの場が多いということである。</p>
委員	<p>小平市自治基本条例は、市民が最初の案をつくり、議会にかけていただいて承認された。小平市の市民力は高いと思う。市民の力をもっと発展させていくという方向がこれから先の大事なことではないかと。</p>
委員	<p>ひとづくり、くらしづくり、まちづくりとあるが、ひとづくりから始まると感じており、前面に押し出すと良い。大学の数が多く、教育環境に恵まれている。市制施行 100 周年を見据えた小平市の将来像として、様々な教育や学びの場を創り、子どもを適切に育てていくということは、欠くことができないと思う。それぞれが学んで努力をする中で得るものは大きい。その人にとって小平がふるさとになると、こんな良いことはないのではないかと。既にまちの中にこれだけしっかりとした大学があり、教育関連施設、あるいはそこで働く先生方も含めて財産になる。教育、学ぶということを前面に押し出す計画が出来れば良い。</p>
委員	<p>持続可能なまちをつかっていくために、みんながぶら下がるだけでは、まちは潰れてしまう。自分の足で立って、自分で独立して歩く人間を増やすという根本的なところを進める。せつかく大学がたくさんあるのでそういう部分をいかしながら、何かそういうものをまちづくりの中で特徴として新たに加えられれば良い。本当にひ</p>

	とづくりが一番財産だと思う。さらには、人を背負って歩く人を育てなければならない。そういう意味でも、起業教育のようなことも視点として必要ではないか。
委員	共に創るというのは非常に良い。資料4の裏面の個別計画にある国民保護計画は平成18年にできているが、改正等はないのか。新型コロナウイルスへの対応なども、先ほどの「安全安心」の一つでもある。計画の充実も考えていただきたい。
事務局	今回の新型コロナウイルスについては、平成27年に策定した「小平市新型インフルエンザ等対策行動計画」を準用して対応している。地域防災計画は東京都の見直しに基づいて、令和2年度から改定作業に入る予定である。国民保護計画は、上位の国の計画の見直し等のタイミングに応じて、市でも見直すことを検討することになるかと思う。
会長	SDGsは持続可能な開発という大きなタイトルであるが、中身は平等社会をつかって貧困を無くすことなど、一人ひとりが自分の持っているポテンシャルを最大限に伸ばせるような社会ができれば、持続可能になっていく可能性がもっと増えていくという意味も含まれている。人が育つことや多様性を認め合うこと、それから自然と調和することにも関わる、全てを包摂するような大きな概念であると捉えている。
事務局	今後市制施行100周年までの間に、あと何回総合計画を策定するかは未定であるが、第四次長期総合計画はそれらの基盤になる期間である。
会長	市制施行100周年である2062年の通過点としての12年後が、2032年である。まさに私たちは今、毎日毎日が想像のつかないようなことに直面して日々を過ごしているにも関わらず、2032年のビジョンを作っていかなければならない。しかし実は、毎日私たちが経験していることは、このような長期総合計画を考える上で、良い環境を作ってくれているのかもしれない。今までにないような未曾有の事態に今追い込まれてきているわけで、日々現場は対応等で追い込まれている。そういう中でも、持続可能な社会を創っていく、国際的な交流も進めていくということを実現していかななくてはならない。その為にも2062年を見据えつつ、2032年、どんなビジョンを描いたら良いのか。私たちは経験したことのないような危機に直面していくが、未来の世代はもっとそういうことが多くなっていく可能性があると思う。そういったことに対応できる力を持った市民をつくっていくためには、そして次世代を育ていくためには、何が求められていくのか、ということを実際に私たちが考えていく必要がある。
委員	12年後や40年後の想像がつかないが、若い次世代の方が安心して次の世代につなげていくためには安全なまちづくりが基本である。それには個々がしっかりと健康で暮らせるまちであるということが大事だと思う。
会長	今回の新型コロナウイルスは、肺炎になることだけではなく、メンタルな部分のサポートも重要であることが、ある通知文に書いてあった。肺炎にならなくても、手洗いの徹底やマスクの着用、人混みを避けることなど、あらゆる世代が心理的にも追い込まれている。
委員	先ほどの資料5の意見にもあったように、住み続けていただくということが、地方

	自治の根源であり非常に大切だと思う。保全すべきものと、整備開発すべきものを調整し、調和の取れたまちづくりを進めていく必要がある。
委員	素案の出来上がりのスタイルとしてどのようなイメージか。審議会として、基本目標ごとに、小平市が取り組む方向性などを整理していくということによいか。
事務局	資料1の骨子案で示している各項目について、素案に向けて肉付けを行っていくということになる。骨子案の基本情報と計画の背景は、計画の序論の部分ということで考えているが、これまでも様々なご意見いただき概ね整ってきているので、早い段階で素案に近い形でお示ししたい。基本構想の部分については、特に基本目標ごとの課題や取組の方向性などの整理をした上で素案として作り上げていく。
会長	基本目標についての検討に入る。まず基本目標Ⅰ、「ひとが育ち、学び、新たな価値を創造するまち」とそれを構成する各方針「子どもの育ちと自立を支援する」、「全世代、元気にはつらつと過ごす」、「まちの誇りを受け継ぎ、発展させる」に関して、文言も含めてお気づきの点などご意見をいただきたい。とりわけ、「新たな価値を創造する」に関しては、意味合いも含めて今後整理が必要かと考える。基本目標Ⅰについて意見はあるか。
委員	ひとづくりの中でも、学園都市や大学を感じさせるようなイメージができると良い。
委員	方針Ⅱの「全世代、元気にはつらつと過ごす」に関しては、30代、40代が過ごしやすくなるような場づくりということがキーワードに入ってくると良い。わざわざ通勤しなくても、地元で働いて暮らすことが当たり前になってくると思う。IT基盤も含めて、働きやすい場づくりというのも、この方針Ⅱで取り上げられるのではないか。ITは、変化に柔軟に対応していくことに活用できるものである。
委員	基本目標Ⅰと連動する計画としては子育て分野等があるが、コミュニケーションやスポーツについてこれからどのように振興していくかということについても考えていけると良い。
委員	基本目標Ⅰでは「子どもの育ちと自立を支援する」と子どもが対象ということが分かるが、他の世代は全世代として丸めてしまうのか。これから高齢化が進み、健康寿命が長くなってきている中で、高齢者を取り上げていないこと自体がどうなのか。
事務局	高齢者という言葉は、基本目標の方針の中では特別に取り上げていない。これまでの議論の中でも、人生100年時代というようなフレーズや、高齢者の概念の変化など出てきた。また、妊娠出産期から子どもの育ちを見守っていくという、子どもに目を向けたご意見が非常に多くあり、子どもについては方針として示した。
会長	次に、基本目標のⅡについてはいかがか。地域懇談会では、多文化共生について、骨子案に対する小中学生の意見では差別に関する意見が多かったように見受けられる。
委員	クローズドの多様性ではなく、近隣市や民間企業、あるいは多拠点居住というのが最近ライフスタイルとしてあることから、広い意味での多様性を意識できるようなキーワードがあると良い。方針Ⅲの地域力についても、視野を広げると、日本全国の地域の力や、他の国の地域の力もあるので、広がりを持ったものが必要。

委員	人口減社会になり、自治の概念をどのように捉えていくかという問題にも発展していく。例えば鳥取県では、関係人口も認めながら様々な力を結集して、鳥取の行政サービスを拡大していこうというような考え方が取られている。小平市民という考えではなく、広い概念の中で対応するという発想は今後重要ではないか。
会長	関係人口を増やしていくという考え方も一つのキーワードになっていくかと思う。
委員	多様性を認めあうことは非常に重要な概念だと思うが、どちらかというとながって共生するまちの方が、より上位ではないだろうか。自治会、市民活動、大学、地域包括ケアシステムなど、小さなコミュニティを活性化して、お互いにそのコミュニティをつなげていくようなことを今後やっていくことが必要だと思う。「つながる」、「共生」を強調できると良い。
委員	基本目標Ⅱと連動する個別計画としては、アクティブプランや、福祉分野、防災計画があるが、例えば外国人との交流やマイノリティについてどのように考えていくか、または世代間交流に関してなど、新しい考え方も反映していく必要がある。
会長	次に、基本目標Ⅲの「自然と調和した、快適で、魅力あるまち」について、活力と交流を生み出すというような言葉もここに入っているがいかがか。
委員	税収も大事なキーワードになってくる。商業、ビジネスも活性化する必要があるが、ベースになるのは都市基盤である。学生は生活の利便性を求めており、小平市で働いてもらうためには、都市基盤の整備も必要である。
委員	働きやすいまちということも、今後の視点として重要である。財政の話が全くなく、果たして長期総合計画として出来上がるのか。12年後の市の財源をどこに配分していくのか、減らないようにはどうしたら良いのか、実際の経済との整合性を取りながら議論することに踏み込んでみてはどうか。
委員	駅前活性化を重点化するキーワードがほしい。7つの駅があり、7つの小平市になるような特徴をもっといやす。これはコンパクトシティという考え方であるが、駅周辺にできるだけ投資するような流れを打ち出すことを考えていきたい。
会長	皆様のご意見を伺っていて、共通言語としてインクルーシブがあると感じた。コミュニティ、つながり、共生というのは、異質なもののインクルーシブに環境を切り結ぶことができる。IT社会にしっかりと対応していくことは、イノベーションがここで起きていくということにもつながり、イノベーションを起こしていく為にはダイバーシティが重要である。それは、異質な人達がここに集まらないと新しい価値が生まれてこないということである。 次に重点プロジェクトに関してはいかがか。骨子案の小平市を取り巻く状況に記載の、「公共施設の老朽化に伴う更新ピーク到来」や、「自然災害や気候変動に対する安全安心への対応」など、コミュニティの視点も含めて、重点的に取り組んでいく案として説明があった。
委員	公共の施設の更新は、永久的な課題である。第四次長期総合計画の12年間でできるようなものは、ほんのわずかかもしれない。これをどのように位置づけるのか。
事務局	公共施設マネジメントは、2062年頃までを計画期間として、まさに第四次長期総合

	計画の期間に様々に動き出す計画である。施設の再編以外に、コミュニティの視点など、ひとづくり、くらしづくり、まちづくりを横断する課題であると捉えている。
委員	取組の方向性は、時代的にはどこをイメージするのか。重点プロジェクトは、将来像を実現するためのプロジェクトというイメージを持っているが、使い分けがしっくりこない。
事務局	第四次長期総合計画は 2021 年度から 2032 年度までの 12 年間の計画であるが、12 年間だけを考えるということではなく、2062 年までを見据えて、そこからバックキャストで策定していくという考え方である。第四次長期総合計画としては 12 年間の計画ということになるので、取組の方向性で示している基本目標や、重点プロジェクトは 12 年間で取り組んでいく内容のものということになる。また重点プロジェクトという言い方でいいのか、重点課題というのがいいのか、重点的な施策というのがいいのかご意見をいただきたい。案として、重点的に取り組んでいく内容のものということでお示しをさせていただいている。
委員	重点プロジェクトはとりあえず二つということか。
事務局	重点化するという意味合いからいうと、事務局としては二つ、多くて三つくらいでお示しするのが良いのではないかと考えている。
委員	SDGs の目標について、内容としてわかりやすいものと小平市を結び付けるということも考えられる。例えば目標 3 の「全ての人に健康と福祉を」、目標 4 の「質の高い教育をみんなに」、目標 5 の「ジェンダーの平等を実現しよう」、目標 6 の「安全な水をトイレに」。これについては、小平市はふれあい下水道館があり、他市との差別化などの視点からも取り入れていくと良いのではないかと考えている。
会長	本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置から、委員の皆様にはご不便をおかけした点もあろうかと思う。今、私たちはこの危機に対応しながら、計画していることを実現していけるように、少しでも前に進めるということで本日はお集まりいただいた。本日の審議を踏まえ、事務局の方である程度の肉付けを行っていただく。次回はゴールデンウィーク明けの 5 月 7 日、事態が終息しているのか予測がつかないが、基本目標ごとに課題や将来に向けた方向性などをできる限り整理してまいりたい。中々予定通りいかないことがこれからあるかもしれないが、是非皆様のご協力をよろしくお願いしたい。
閉会	